

審議会等会議録

審議会等の名称	第3回新山口駅北地区重点エリア整備方針検討協議会
開催日時	平成22年1月15日（金）10:00～12:00
開催場所	小郡総合支所 第1会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	【新山口駅北地区重点エリア整備方針検討協議会委員】 青木豊太、青木尚二、鵜心治、梅田恵一、大庭達敏、河野康志、桑原祥次 齋藤英智、中村泰、西村良夫、野口嘉一、濱井昭巳、原田勝昭、福山泰弘 松井邦昭、吉村弘（敬称略） 【同オブザーバー】 高杉和典（代理）、工藤俊彦（代理）、古谷健（代理）（敬称略）
欠席者	なし
事務局	ターミナルパーク整備部計画課 株式会社日本経済研究所
議題	1 開会 2 挨拶 3 議事「新山口駅北地区重点エリア整備方針（素案）」について 4 その他
内容	次第に基づき以下のとおり進められた。 <u>1 開会</u> <事務局> 資料確認 委員出欠状況の紹介 <u>2 挨拶</u> <ターミナルパーク整備部長> 挨拶 <u>3 議事</u> <事務局> 会議趣旨の説明 <会長> 会議録署名委員の選出（青木豊太委員・青木尚二委員） <委員> 説明の前に1つのお願いと、1つの質問をさせていただきたいんですけど、 お願いは、私非常に頭が悪いので、えらい横文字がずらずらっと17ページ等 並んでおりますけど、意味が全くつかめておりません。コンソーシアムちゃ何 かようわかりませんし、リカレント教育ちゃ何かようわかりませんので、日本 語に置きかえて御説明をひとつよろしくお願いしたいと思います。それがお願い です。 それと、質問は、なぜこういう片仮名ばかり使うてやらのやいけんのか、 これをお見せするのは多分日本人相手だろうと思いますんで、できたら日本語 でお願いできたらということで、なぜかということをもひとつ御質問、それは終 わってで結構でございます。とりあえず説明のときに日本語に置きかえて御説 明をお願いいたします。 <会長>

はい、どうぞ、事務局のほうよろしくお願いします。

<事務局>

「新山口駅北地区重点エリア整備方針（素案）」の説明

<委員>

くどくは言いませんけど、そうやってちゃんと文言が説明できるんなら、初めから文言で書いたほうがいいんじゃないですか。まず、説明できるようにしちゃいてね。

<事務局>

御指摘ありがとうございます。すべてちょっと日本語に直訳できるかどうかわかりませんが、なるべくそのように努めてまいりたい、そうできない部分については、注釈あるいはその用語解説をつけてまいりたいと思います。

<会長>

よろしいですか。いいですかね。一応資料の説明をいただきました。それで、今の御説明にもありましたように、最初に整備の基本的な考え方がありますですね。それから、導入すべき機能・施設、それから土地利用のあり方、こういうふうに大きく3つに分かれておりますが、特にどこでなければということはありませんが、まずは、できれば最初のほうから詰めていけたらと思うんですが。

最初の整備の基本的な考え方についてですが、これ今の御説明をお伺いしますと、市長さんが都市経営という観点からよく強調しておられまして、最初においでいただいたときも、そういう御説明をプロジェクターに映して説明をいただいたように思いますけれども、将来の市の姿として、広域経済・交流圏を形成していこうと。そして、この山口市地域を広域県央中核都市として育てていこうと、こういうビジョンを持っておられるように、そのときお伺いをいたしました。

そういう観点から、この重点エリアは、その中の面積的に見てもごく一部にすぎませんけれども、単に駅前のにぎわいをつくろうと、そういうことだけではなくて、それを核にしながら産業や交通の拠点として、この2つの都市核のうちの1つの小郡都市核を育てていこうと、そういうふうな基本的なスタンスを持って、ここの整備の基本的な考え方ができ上がっているのかなというふうに私は受け取りましたけれども、この基本的な考え方についていかがでしょうか。今までも議論をしていただいております、都市核等についてはマスタープランが出されております。その上に総合計画がありますので、それに基づいて出されているように思いますが、これを前提として当然今までもここでも議論してまいりましたし、次の導入すべき機能・施設のほうを考えていくという、そこがうまく整合的にできていると思われるかどうかという点が焦点になるかと思いますが、いかがでしょうか。だんだんと具体化していくという方向になりますですね。出発点のところ、この出発点そのものは、この協議会の議題ではございませんので、御意見は御意見としてあるかもわかりませんが。それと、以下のものとの間の整合性をとれるときに、その解釈等について特に問題はないかと、こういうことですね。その点はよろしいですかね。もし次に行きまして、導入すべき機能・施設のほうに入りまして、また、そういうのが、御意見があれば、そのとき出していただくということで、導入すべき機能・施設のほうに入らせていただいてよろしいですかね。

（「いいですか」と呼ぶ者あり）はい、どうぞ。

<委員>

中身については、まさに言われたとおりなんですけど、ちょっと私が読みましてもらったときに、例えば、熱心に読んだらわかったんですけども、やはり一般の皆さんがわかりやすいように、ちょっと整理されたらどうかなと思うんですけど、今言われましたように、まず山口市の総合計画があつて、またマスタープランがあつて、それからターミナルの整備構想があつて、またその中にずっ

といろいろあるわけですね、具体的になっとるわけですね。その辺が、やっぱり今までの計画は、最初にその全体の位置づけがあるわけなんですよ。全体の中でこういった位置づけでこの重点エリア整備というのが、そういう計画を今からつくっていくわけですよ。そういった全体の位置づけの中でここがわかるようにしたほうがいいなと思っているんですよ。

それと、整理の仕方、やはりそういった形で整備方針の策定の背景というよりは、まさにこのエリア整備方針の役割とか位置づけというような形の中で、じゃ一番最初のところは、まさに山口市総合計画全体について述べておられるわけですよ。だから、ちょっとその辺を全体が初めての人でも総合計画の中からわかりやすいような編集をするといいなと思っておるんですけどね。

<会長>

わかりました。そのように配慮して進めていただきたいと思います。総合計画から都市核のマスタープランを経て、この計画に至っているというところですね。よろしいですかね。

それでは、そういうことで次の今日の主要なテーマですが、導入すべき機能・施設につきまして、前回いろいろな御意見をいただきましたが、それを反映してこのたび、先ほど説明をいただきましたように、案を出していただいております。12ページ以降になりますか、これについて御意見をいただきたいと思います。たくさんの御意見をいただきましたが、大筋においてそういうことが配慮されているかどうか、もう一度よくお確かめをいただきまして御意見をいただきたいと思います。

ざっと見ますと、10ページ、11ページにありますように、3つの層がありまして、にぎわいから主体性、持続可能性とありますが、そういう順番に12ページから説明があります。はい、どうぞ。

<委員>

先ほどの基本的な考え方から次の導入すべき機能・施設というところを事前にちょっと目を通しましたが、率直に言って、非常にわかりにくい。率直に言って、個性がない。率直に言って、どこの都市でもふさわしいというような印象を受けております。それで、これは何でそういうふう印象を受けるのかなというふうに自分なりに考えてみると、やはりそこに地域性とか文化とか、そういったものがここの文言に全然出てきてない。先ほどの指摘にあったように、上位計画にそういうことが盛り込まれているのであれば、重複してもいいので、そこを盛り込んで、だからこうなんだというようなシナリオをつくってくれないと、これが果たして新山口駅前達成していいものかどうかというのが判断しようがないような気がするんですね。

これ3つのキーワードの中が機能として3つずつまだ出ているんですけども、これほとんどすべて網羅しています、機能がね。このすべて機能している中の優先順位なり施策順位なりを決めていく際に、どこに戻らないといけないかという、この基本的な考え方に戻らないといけないですね。ここの基本的な考え方でその優先順位なり導入すべき機能の選別が可能かという、この基本的な考え方では、優先順位なり選別する基準がちょっとわからないような気がするんですね。ですから、ここでどういう議論をすればいいのかというのが今のところわからないというのが印象です。ちょっと意見になりましたけれども、質問と言うよりもですね。

ということで、事務局のほうのお考えをお聞きしたいと。

<会長>

はい、お願いします。

<事務局>

まず初めに、ちょっと個性的でないっていうか、ちょっとわかりにくいという、どこにでもあるようなというふうなお話だったんであろうと。したがって、山口ならではの地域性でありますとか、文化性、固有性というのが見

えてこないという御指摘であったと思います。委員さんのほうからもちよつと、上位計画にそういったものが記されてあるならば、この整備方針において改めてそれを明確にすることにより組み立てとしてわかりやすくやっていただいてはどうだろうかという御指摘だったと思います。そのあたりにつきましては、先ほどの委員さんの意見にも近い部分がございますので、そのあたり、また改めて検討してみたいというふうに思っております。

それから、ちょっと個性的というふうな部分に関しましては、若干これはちょっと言い過ぎかも知れませんが、この新山口駅の駅前空間というものが、まずもって今現在余り個性がないような状況であると。そういった中で第2層目にアイデンティティというふうなものを掲げておりますが、主体性、個性、そういったものを創造していこうということで、じゃ具体的にそれはどうやっていくかという部分については、またいろいろとこれは別の機会を通じて、そういうものは求めていかなければいけないのかなと。ただし、そういった個性をつくっていくことは非常に重要であり、欠かせない視点なんだというふうなことをここでちょっと整理をさせているような状況でございます。ある意味、中核都市を目指す地方都市の新幹線駅前としては、普遍性、汎用的な都市機能というものが当然求められるというふうには考えております。その上で、じゃ次のステップとして何を個性化していくかということが非常に重要なんだというふうなことも考えておりまして、そのような形の中で3層構造というふうなことを整理をさせていただいている状況ではございます。

それから、優先順位につきましては、あくまでもこの3つの層ですね、持続可能性、主体性、にぎわいというこの3つの目標を達成してまいりたいと。そのための手段として、中にいろいろな機能を書かさせていただいております。正直、どれも重要だろうというふうには考えておりますが、先ほど申しましたように、まずは駅前にふさわしい一定の汎用的な都市機能というものが当然必要だと。

加えまして、ちょっと18ページになるんですけども、土地利用のあり方というところでちょっと触れさせていただいておりますが、ここでゾーニングということで、ABCというふうに分けさせていただいておりますけども、12ヘクタールを一遍に面整備することはちょっと現実的ではないということで、Aゾーンを先行整備地区という形で先導的、そして先ほど申しましたように、一体的な市街化を進めてまいりたいというふうに考えております。このAゾーンの中で、ここに書いてありますような産業振興、鉄道関連、飲食・物販、サービスと、ほかにもありますけども、こういった機能を先導的に進めていって、包括的にといいますか、そういうふうな形でできるだけ機能が導入できるよう、そういった形で具現化を進めてまいりたいというふうな思いでございます。

いずれにいたしましても、流れ的にと申しますか、わかりにくさという部分はあるんだろうと思っておりますので、その辺につきましては、御意見、御指摘を踏まえて、またちょっと検討をさせていただきたいというふうに思います。

<会長>

はい、どうぞ。

<委員>

余り言うとかどくなるので、これで終わりたいと思いますけれども。そもそも計画の体系というのは、上位計画があろうとしても、中身を、いわゆる具体化していくということが必要なんですね。その文化であるとか歴史であるとか地域の個性とか、そういったものが上位計画に書かれてあっても、下位の計画になると、その具体性が発揮されないと、その上位計画の持つ、その言っている意味が咀嚼されない、いわゆる具体化してこない、そういったことなんです。

ですから、これが上位計画が2つも3つもあるのであれば、それを具体化してここに落とし込んでないと、要は、それが機能につながってこない。いわゆるそこで何をやればいいのかというのがわからない、そういうことになってくるわけです。

ですから、いきなり、先ほども御指摘がありましたけれども、プロスペリティ、アイデンティティ、サステナビリティと言われたところで、本当に新山口駅の北口を地域に根ざした形で、それも県の玄関口としてどういうよりどころを持って何をつくってあげればいいのか、どういう巻き込み方を、地元の方々の巻き込み方をしていけばいいのか、そういうよりどころとなるようなものが具体化してないと、なかなかこれが機能につながってこないんじゃないかと思うんですね。

ですから、それを、いわゆるいろんな方々に応援していただかないといけないし、応援団をつくっていかないといけない。そのときに共有化できるようなビジョンみたいなものがしっかり具体化されてないと、それにいきなりカフェとか、そういったものが後に出てきても、それはちょっと違うんじゃないかなというふうに感じがするんですね。

ですから、その辺のプログラムなりシナリオが十分に地元で御理解いただけるような、もしくは県内全域で御理解いただけるような、そういったシナリオをちゃんとつくっていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。今のも意見です。

<会長>

そうですね。はい、ありがとうございます。今のは大きく2つの点を御指摘いただいたかと思いますが、一つは、上位計画で盛られているような地域性とか文化とか歴史とか、そういうふうな個性的なものといいたし、そういうふうなものがここで具体的にどういうふうに結びつけられているのかということ、そしてもう一つは、優先順位のことですが、それらをはっきりさせることによって共有するというふうにおっしゃいましたが、することによって、今後それを進めていく上でみんなの力を合わせることができると、そういうためには上位計画にあるようなものとの整合性を具体的に示していく必要があるかと、こういうことですかね。

それと、今の優先順位については、少し私の言い方は乱暴かも知れませんが、12ページでは、下から順番ににぎわい、それから言葉で言えば、にぎわい、主体性、持続可能性と、こうなりますが、下から順番に、まずそれがあって、それからその次だと。それから、18ページのほうでは、A B Cの順番だと、そういうふうにごく荒っぽく言えば、そんなような説明であつたかなと思いますが、少し語弊はあるかも知れませんが、優先順位とすれば、そんなふうに考えていると理解してもいいんですか。少し荒っぽいですか。

<事務局>

11ページのイメージ図につきましては、整備の順番というよりは、一般的に駅前空間がどのような状況にあるかというふうなことを下から上に言っているというふうな感じで、その駅前というものは、特に一般的にはにぎわい空間というものが存在しているだろうということでございます。

ただ、一方で、じゃ現実のこの新山口駅の北口を見たときに、そういう状態にあるかということになれば、それはちょっと甚だ疑問があるだろうということで、まずは少なくともこの地域には地方都市、中核都市を目指す駅前の空間としてのにぎわいというものはやっぱり必要なだろうと、これはどこにでもあるんだよというようなイメージであります。

それから、やや背伸びをしまして、そういったにぎわいをつくっていく上において、成熟した社会に対応して、価値化とか個性化とか文化とか景観、そういったものを加えていこうじゃないかというような思いが2番目としてありまして、もう一つ上には、これはどちらかと言いますと、この地域に限った話

ではないんですが、この重点エリア、小郡都市核という地域が山口県央部全体の産業振興なり活力創造、そういったものに役割を発揮するような、まさに上位に掲げるまちづくりの思想なんです、そういったものを目指していこうではないかというふうなものをさらに付加しているというふうなイメージでつくっております。

いずれも重要だというふうには考えておりますが、そういった意味でどこに力を入れていきたいかという、究極的には、まちづくりの目標として、山口市のみならず、圏域全体での活力を創造していくと、そのことが山口市の活力の創造にもつながってまいりますので、レイヤー３のその持続可能性といった部分についても、これは特に重きを置いてまいりたいというふうには考えております。

<会長>

そうすると、１１ページのところでは、一番下というか、下から２番目のプロスペリティという、にぎわいと言っているところは、「のぞみ」がとまるところは、別にここじゃなくても、どこでも皆備えるべきであろうと。しかし、それに加えて、少し個性的なものを入れようというのがその２番目の、ここで言う主体性、快適かつ良好な景観や環境空間を形成し、個性や魅力あふれる云々と、ここでより個性的なものにしようと、こういうことですか。（「はい」と呼ぶ者あり）そうすると、先ほどの御指摘いただいたような上位計画の中で、地域性とか歴史とか文化についてのことがあると、それはここで具体化されると、こんなことですかね。そういうふうを考えればいいんですかね。

ほかにございませんですか。はい、どうぞ。

<委員>

にぎわいという部分で今の悪い事例をしゃべろうと思うんですが、今、防府の再開発ビル、昨日ちょっと見てきたんですね。１階と２階の店舗の約３分の１があきになっています。建築的なよみだとか、人間を動かす部分の形というのはちゃんとできていたと思うんですけど、根本的に人が来ないという部分ですね、ある意味じゃ、例えば、キャナルだとか、周りの外観を全部見えなくして、中に取り込んで、そこでいろいろやるという部分の方式なんですけど、多分あの防府はそこに人が来ないということで完全にとまっていると思います。

その理由の一つは、防府駅と再開発ビルの上に県の施設があります。これが邪魔をして、駅から直接といいますか、駅が上に上がったわけですから、２階から再開発ビルの２階に入るという動線がないわけですね。そうすると、２階に人が通ってくればシャワー効果で１階におりる、その逆もあるということで、今約１．６ヘク、国有地で約ですね、この辺をどうかしようというのが官といいますか、が考えてやろうとするものですね。

でも、我々がいますＢゾーンですね、この再開発ビルを今計画してやっているとこなんですが、やはり駅から人をどう流していくのか、それがにぎわいの考えであって、じゃその先はどこへと、その先に何があるんだと。例えば、埼玉県の秩父市であります。ここのＪＣの連中が、商工会議所ですかね、の人たちが物すごく熱心で、道のポイント、ポイントにわけのわからない銅像といいますか、つくって、それを神様に奉納しましてね、それをたどっていけばどこに行く。例えば、Ａ地点に行ったら、Ｂ地点まであと何メートルだよとかね、いろんなことが書いてある。それと、自分たちで通りに名前を勝手につけて、何とか通り、こちらですと、例えば小郡地区ですと昭和通り、明治通り、大正通りってあるわけですね。だから、やはりこの大して役に立たないかもしれないけど、その全体のこの小郡の社会資源を使いながら、駅を中心として回遊させるとか、そういう目的を持たずに、ただ単に人が来るかもしれないということじゃとても活性化はないと思うんですね。

ですから、少なくとも駅近辺について、人がこう流れるだろうと、で、こう

流すんだよという目的を持って建物といいますか、商業スペースとかいうものを配置していかないと。ただ単に何でもおさめ、こういうものもいい、こういうものもいい、例えば、防府ですと、シネマコンプレックスは、映画館ですね、日本語しか僕しゃべれないんで、ちょうど裏側にあるんですね。再開発ビルのほうは、駐車場も持っていますけど、車で行っても、映画館からという部分は発想がないんですね。で、あそこが横断しにくいというわけでもないんですけど、なかなか駅北のほうには行かれない。多分今のその後の状況では、新幹線口といいますか、南に面しているほうはどんどん発達していくだろうと。北側に人を寄せるということについては、新幹線とか在来線を利用される方の動線をどうやって北に引っ張るかということを考えていかなければ、幾ら議論してもしょうがないんじゃないかと思います。そういう意味で、ある程度2.5ヘクの中に核といいますか、中核となるものをどうするかというのを先に考えて、それが可能であれば、それについて十分協議して、じゃそれに対してこういう配置をしよう、こういう配置をしようというような考えもあっていいんじゃないかと思います。

以上です。

<会長>

今のは、人の動線を考えるのが大事だから、まずは中心になる施設を考えるのが先だと、こうおっしゃったんでしょうか。

<委員>

そうです。平成26年までに合併特例債を使わないと、会社みたいにしても同じ借金だと思うんですけど、合併特例債が平成26年というその期限が過ぎますから、それまでに行政側としてはその金を使って何かをしたいということだと思うんですね。だから、それに合わせて逆算して、じゃ今からやれることは何だということを十分協議されて、ある程度人が集まるといいますか、また逆に人を集められるものを提案といいますか、提案しながら、それが可能であれば、そういうものを軸としてにぎわいをつくったらどうかと思います。

<会長>

何か今のについて御意見ございますか。あるいは事務局のほうから何かありますか。はい、どうぞ。

<事務局>

御意見ありがとうございます。私どもとしまして、基盤整備でございます新山口駅ターミナルパーク整備というものを平成26年を目標にやっておりますんで、それと並行してAゾーン、先行整備地区については、面整備を終えるような、そういうふうな努力をしまいたいというふうな、基本的なスケジュールの観点を持ってちょっと取り組んでまいりたいというふうに思っております。

それから、今、駅との連たん性のような話も出ましたが、19ページのところにつきまして、土地利用のあり方ということで、駅空間との連たん性の確保というふうなことでちょっとふれさせていただいております。具体的には、その駅からの視認性であるとか眺望性であるとか、こういった部分について、第2回の協議会でもいろいろと御意見をいただいておりますんで、そういった視点も当然持ちながら、確実に人が来ていただけるような、そういったものをいろいろと今後も検討しながらその整備を進めてまいりたいというふうに考えております。

<会長>

関連して何かございませんですか、人が集まるといえるか、集客力とか、そういう問題は前回のときもいろいろ御意見がありましたし、いつも問題になるんですけれども、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

<委員>

今回のこの冊子をというか、素案を拝見していて、編集の方針とか、いろいろ

る厳しい御意見も出ていましたけども、まず、皆さん方から前回出た御意見を中心に並べたんだろうねというふうに正直思いました。

ただ、心配なのは、このまま本当に進むんでしょうかということを確認させていただきたいんですけど、本当にこれ全部実現可能性があるのかないのか、検証したのかどうなのかなんですよね、一つは心配なのは。17ページには、皆さんが全部出された御意見を全部盛り込んでいって、正直、感想はバラ色の計画というふうに私には見えていて、本当に大学のそういうコンソーシアムが組めて、ここにそういったものを誘致できるんでしょうかとか。

もう一つは、環境に配慮したとか、いろいろ、済みません、計画ですからいいことしか書けないんでしょうけど、事務局は大変だと思うんですよ、このまま進むと。本当にお金足りるんですかというのが正直な感想です。

私は事務局にお願いしたいのは、皆さん方はそれぞれの分野で御意見を出されているわけですから、その中で事務局として調整をなさる、これはちょっといい意見なんだけど、こっちのほうを優先しますとか、僕は山口市の意思がこの中に入らないんじゃないかなという、ちょっと厳しいことを言って申しわけないんですけど、そういうものを素直に感じますので、私は旅行業の代表なんで、旅行業の観点から申し上げると、13ページに書いてある3番目の公共交通の利用促進等を意識した多様な交通アクセスというふうな記載で、そこに導入のポイントの中に、鉄道やバス等の公共交通機関の充実と書いてあります。それと、公共交通機関を利用しやすいまちづくりと書いてありますが、にぎわいを創出するまちをここににつくって、例えば、パークアンドバスライドだとか、そういった車を呼び込むような計画で本当にいいんでしょうかと。要するに、鉄道とともに発展してきたまちという記載もこの中にはあるわけなんですけども、実際に文化ゾーンである位置づけになっている上位計画の中での旧山口のコアエリアと新山口とのつながりを本当に動産だけでやるつもりなんだろうかと。要は、環境に配慮するまちづくりをすべきだと思うのに、そこに渋滞を発生させるような、そういう考え方があって本当にいいんでしょうかというのが、正直ちょっと今日はがっかりしているんですけど、これを拝見してね。もうちょっとやっぱり山口市さんの意思をここに盛り込んでいただきたいなと私は思います。済みません。

<会長>

はい、ありがとうございました。たくさん意見は皆入っているけど、実現性はあるのか、お金は足るのか、あるいは山口市がねらっているのはどこなんかに、その意思が入っていないんじゃないかと、そういう話をいただきましたですね。

関連した御意見はございませんですか。どうぞ。

<委員>

私は観光の仕事をしているんですが、実は全国に山口県をPRに行くんですよ。皆さん、御存じのように、山口県というのは本当東から西まで観光地がたくさんあるんですよ。いろんな観光地を説明するんですけど、必ずどこに行っても、最後に返ってくるのは、じゃその中で何が一番いいですか、どこが売りですかというのが来るんですよ。

実はこういった計画をつくる時全くそうなんで、やっぱり計画ですからいろんなものが当然必要だと思うんですけども、まさに新山口駅でこれとこれという個性を持ったものをつくっていくと。要は、らしさとか、あるいはこれはここでは日本一ですよとか、あるいは売りはこれですよというものはつきり、それは推進していくんだというのがやっぱり夢になると思うんですよ。やっぱりそういったものを市のほうで、さっき委員さんが言われたんですが、市のほうで実現可能な分、なおかつ全国に誇れるようなものを、より具体的なものをやっぱり想定していくというのが非常に大事ではないかなと思っております。

<会長>

一番の売りは何ですかということですね。はい、どうぞ。

<委員>

非常に難しいことですが、なら山口市、今、私はもう出身は山口じゃありませんけども。そうしたら、今皆さん言われていました、なら山口市をアピールすることって何があるかと言ったら、すぐ出ますか。多分ここだったら、すぐ私のほうで見たら湯田温泉あるいは秋吉・鍾乳洞ですか、この近所だったらですね。これぐらいしか出てこない。それを山口市のこれをというアピールがなければ、要は、私はこの新山口駅も「のぞみ」が、本当に前から言っていますけど、「のぞみ」がとまります。そしたら、大学を呼ぶとか、いろんな企業を呼ぶということになってくれば、非常にまた難しいところがありますので、本当に住民を、人口をふやすのか、あるいはメッセ機能といいますか、何か若い人が集まってくるような建物をやるか、この面積もある程度限りがありますからですね、見学も私行きました。本当にその中で、今この山口市、県央ということであれば、やっぱり人が集まるって言うたら、公共施設が立ち、あるいは金融機関が立ち、マンションが建てば、恐らく人が集まるんじゃないかなと私自身仕事柄思っていますが、もう一度その辺を、だから、そこから考え直したほうがと思いますけども。

<会長>

山口市というと、何をまずイメージしますかという話ですね。どうぞ。

<委員>

山口の強みとか弱みとかあるだろうと思うんですけど、私は観光の観点からは、ちょうど文化ゾーンである旧山口とこの新山口の間には湯田温泉がありますと、中小合わせて1日当たり5,000人泊、要するに5,000人を収容できる宿泊施設が今既にありますと。だけど、これがずっと続かないと思うんですね。もう銀行関係の方々が多いんでよくおわかりのとおりですが、旅館とかホテルはほとんど黒字のところは皆無に近いと。要するに、赤字経営をしていらっしゃるところが多いということで。ただ、これは都市型温泉で情緒がないとか、いろいろ湯田温泉は言われていますけども、ある意味、あれだけ道路が3本も間に通っていて、立ち寄りがすごく見やすいというか、入りやすい温泉地って全国でも珍しいところなんですね。ここにどうやってにぎわいを求めるかということで、既にあるものをつぶすんじゃなくて、そのままにしておくんじゃなくて、今回のこの新山口エリアの開発は、やっぱりその文化ゾーンである山口、それと間にある湯田ですね、それと新山口とのつながりを意識すべきだということを先ほど申し上げたかったんですけども、明らかに観光の観点では、やっぱり山口市の強みは湯田ですよ、間違いなく。それと、もう一つ加えて言うと、マイルスというか、例の大会とかイベントの関係で言うと、やっぱり維新公園の中にある、これは県の施設ですけど、そういったところとのつながりというのも大事だと思いますし、やっぱりこの中にはYCAMの記載も入っていましたが、この新しく開発するところへYCAMとのつながりをどうやってつくられるのかなと、正直もう大いなる疑問です。それよりも、やっぱり中国エリア、中・四国エリアを含めて、九州エリアもそうなんですけど、すべてが2次交通が問題なわけですよ。あるいはいい施設があっても、そこに行き着くまでのアクセスの整備が不十分なんで、観光客も寄りつきがしにくいし、外人旅行客もやっぱりわかりにくいんで、そういうサービスも少ないからやっぱり来れないというか、来たくないというところがどうしても出てくると思うんで、そのあたりをやっぱり計画の中には、今ある施設をどうやってお互いに相乗効果で高めていくんだというスタンス、それは僕は山口市の意思じゃないかなと思って発言をさせていただいたわけですけど、ぜひそこを入れていただきたいなという思いでございます。済みません。

<会長>

はい、ありがとうございました。現在の施設をどう生かすかということですね。はい、どうぞ。

<委員>

全般的には、今まで議論されたことがある意味でインクルーズされておりますので、内容としては、もうこれだけであれば非常にすごいと思います。あとは予算の関係で、どこまでできるかという具体的な落とし込みがどうなるかというのはかなり気にはなりますが、今回の整備の基本的な考え方としては、私はおおむねいいのではないかなというふうには感じております。

ただ、先ほどから指摘がありますように、この新山口駅というのは、旧山口といいますが、山口の中心部とのどういう連携をとっていくのかとか、あるいは県の玄関口でもありますので、その点がまずもって一番の重要な機能じゃないのかなというのは、同じように私も思っております。その辺の表現をもう少し強く出されたほうがいいかなというのは感じております。

それから、18ページの、先ほどAゾーンが先行整備地区という指摘がありました。できれば、ここでその先行整備というのは具体的に何年度を目標としているのかということぐらいは、もし出せるなら出すほうが、例えば、合併特例債が切れる平成26年度までにはAゾーンの先行整備地区についてはもうある程度形が見えるようにすると、具体的に出していただくほうがありがたいというふうに思います。

以上です。

<会長>

はい、ありがとうございました。いろんなものを網羅されているから、おおむねいいけれども、旧山口市との連携とか、県の玄関としての機能などをもう少し強く打ち出す。それから、Aゾーンの整備が何年ぐらいまでなのかと、そういうのも示してほしいと、ということですかね。

1時間余り、議論を始めて40分余りたったんですが、御説明の後、今お伺いいたしますと、一番最後のところの土地利用のほうはちょっとまだのけますと、導入すべき機能・施設というのを中心にお話をいただいておりますが、前回出していただいた御意見は大体入っていると。特に抜けているようなものはないだろうと。ということは、またたくさんあるから優先順位というか、どれが重点的なのがなかなかわかりにくいという御指摘をたくさんいただいたというふうにも思います。

そこで、やはりそれこそこの協議会が求められていることかなと思うんですが、前回たくさん出していただいた意見がここにたくさん並べてあると。その中でどれをそれぞれの委員の方々が重視して、それぞれそれには理由は皆あると思うんですが、自分とすれば、山口市はこういう個性を持っているからこういうものをやるのがいいとか、あるいはそれは具体的になればなるほど意見が同じではないかもわかりませんが、そういうふうなのを見て、たくさん書かれているものの中で、これを重点的にというようなのが、まさにここで、この協議会で意見がある程度まとまってくると、小さくすればするほど分かれてくるでしょうが、ある程度のところでまとまりができてくるといいかなと思うんですけどね。具体的にどの番地に何となら、そりやなかなか意見は問題があるかもわかりませんが、そこまで行かないで、この重点エリアについてこういうものをということですね。それには、その背後にある考え方は人によってもちろんいろいろ違い得るかなと思うんですね。個性とか、やはりいろいろ山口市が持っている背景などもあろうと思うんですね。そういう観点からはいかがでしょうかね。大体あるけれども、それらの中で特にこういう点からこの重点エリアを整備したらどうかと、こういうのはどうでしょうかね。私もこれ見させていただいたときに、皆さんは御意見がたくさんありましたけれども、何か心にぐさっと刺さるような、あるいは心をぐさっとつかむような、イメージがぱっとわいてくるような、そういうふうなものをなかなか感じにくか

ったような、そういうのは否めないような、思いましたんですよね。

しかし、それぞれの人が何かのイメージは持っておられると思うんですね。それをここでぶつけていただいて、みんなが一致することは難しいにしても、ある共通部分が描き出せればいいかなと思うんですけどね。市のほうが最初に、これだというのを一つ出すと、それもまたおもしろい火種になっていいと思うんですが、なかなかそういうのを最初からは案として出すときも難しいところもありますよね。一応網羅して出して、そこでその中からそれぞれの人がどれに食いつくか。はい、どうですか。

<委員>

大体やっぱり何をするにしても、企業というのはお金がかかると思うので、先ほどから意見が出ています、合併特例債を使うなら、それをどれだけここに使うのか。ある程度はつきりしたら、どういうものができるかという形で出したら、それこそ、今会長さんが言われたように、集約していくんじゃないかなと思いますけど。

<会長>

金額の問題、大体の規模ですか、その辺はどうなんですかね。

<事務局>

ここに目標なりビジョンなり掲げておりますが、当然事業主体もまだ決まっていないうと。当然一般的に考えて、これは公共だろうと、これは民間だろうという部分は漠然とわかるというふうに思っています。

ただ、ここで重きを置いておりますのが、この地にどういった機能があるべきではないかというふうな形で、まさに皆様方、産業経済界を代表される御見識をお持ちの方からいろいろ御意見をいただいてというふうな思いでこの整備方針を取りまとめておりまして、具体的な施設につきましても、例えば、規模でありますとか、そういったものは、次のステップとしていろいろ検証してまいりたいというふうに考えておりますので、事業費そのものもそういった形で出てこないということで、数字を特に積み上げているわけではございません。

ただ、当然民間を誘導するにしても、公共は何もしないで民間がすべてこのとおり出てくれるかと言え、なかなか難しい部分もあると思いますので、じゃどうすべきか、公共がどう関与すべきかと、何をすべきかといった部分は当然出てくると思っておりますし、そこについては、当然それなりの力を入れていく必要があるんだろうというふうに考えております。

<会長>

規模の問題まではこの協議会で特に詰めるつもりはないと、その次の話だということなんですね。はい、それは、事務局の考えはわかりましたですね。ほかに何かありますですか。今まで御意見いただいたのを拝見しますと、前回の意見は大体入っていると、先ほど河野委員さんがおっしゃったようなことなんです、大体盛り込まれているということになりますと、全体としてこういうふうな方向で行くのはいいかもしれないと。しかし、どこかをもう少し膨らまして重点的にやったらどうかということとをそれぞれの方から御意見いただくといいかなと思うんですね。10ぐらい言やあ、どんどん薄まっていくわけですから、一つ、二つ、ここが重点的なんじゃないかというふうに言っていて、そして、それが多くの方がオーバーラップしてくるところは、数だけの問題ではないとは言えますけれども、しかし、そうなればオーバーラップがどんどん膨らんでいけば、やはりそこに意見があるのかなというところも見えてまいりますよね。たくさんあるけれども、例えば、何ページのどのあたりにある、ここで書いている、こういうあたりが大事なんじゃないかと、いろいろな山口市周辺のことなども考えて、この重点エリアにこういう方向の機能を入れていくのがいいんじゃないかと。そうすれば、それにつながる施設が次にだんだんと出てくると思うんですね。機能が決まっても、すぐ施設がこれしかな

いとはなかなかならないかもしれませんが、そういうふうなのを、例えば、何ページのどのあたりにある、こういうあたりをもうちょっと重点というか、膨らまして強調してほしいと。先ほど何かそういうので、どこをもう少し強く出したらどうかという御意見をいただいたのもありましたけど、そういうふうなのを幾つかいただければ、共通点が見えてくるかなという気もするんですけどね。はい、どうですかね。

<委員>

私、生まれが小郡です、高校まで小郡で、実家も今小郡にあります。小郡の特徴は何かというふうに考えたら、やっぱり鉄道しかないんですね、ずっと育ってきて、鉄道のまちというイメージですね。機関区があって、機関区の操車場があってというイメージ。あと何があるかちゅうたら、其中庵で、一時的にあそこに住んでいたというぐらいしかない。ずっと小学校、中学校育ってきて、常に小郡は通過点のまちというイメージでずっと育ってきたんですね。それからすると、個性と言えばSL・D51ですね、それから、おいでませキャンペーンで小郡から萩、津和野ですね、そういったイメージですね。学生時代は東京にいましたが、そのころ中原中也が結構女学生に人気があって、湯田温泉に行くとか、萩、津和野に行くとか、そういったイメージですね。

この主体性の中で鉄道関連の施設を導入するという部分で意見が書かれています、JR西日本との連携を検討するとか、それから姉妹都市のパンプローナのスペインの鉄道車両の展示とかいうことが具体的に書いてありますが、この辺について、具体的にじゃ本当に導入できるのかと、JRとの話はどうかとか、埼玉のほうにある鉄道記念館がかなり人気があるみたいですけど、その辺の状況はどうかとか、これを山口に持ってきて、小郡に持ってきて、果たして同じように行くのかとか、運営は第三セクターでやるのかどうするのかとかいうようなこともいろいろあると思いますけども、本当に核になるという点から言えば、小郡は本当その鉄道を主体に出していかなざるを得ないような気がしております。

以上です。

<会長>

今のは何ページのどのあたりということになりますかね。

<委員>

14ページにアイデンティティ、主体性のとこですね、鉄道関連という部分で記載が出ておりますんで。

<会長>

ありがとうございました。今14ページの鉄道のまちというのに根ざした一つの御提案をいただきました。できましたら、何ページあたりに書いてある、そのものじゃなくても、それに関連するようなところで、そこを少し膨らますというか、重点的にしてはどうかとかいうふうなのがあるとありがたいですけどね。はい、どうぞ。

<委員>

ページですと3ページのところに都市核づくりという話を書いてあって、そこでこの小郡は人が集まりやすい、現に集まっている場所であるから、産業交流拠点として公共としては進められるんだということがそう書いてあって、それから、今度10ページの3つの層というところで、先ほど事務局から御説明がありましたけれども、その3つのうちの持続可能性というところについて、ある程度広域的に、それから時間軸としてもある程度長目にエリアの産業振興を図っていくんだというふうなお話がありました。それから、11ページでも、下から上へという方向の御説明で、単なる駅前のにぎわいだけではなくて、産業の中心地としてというふうなお話がありましたので、市さんの思いというのは、ここにいろいろたくさん盛り込まれていることとは別に、私にはフォーカスされて聞こえたというふうに思います。

そうすると、16ページのところで持続可能性ということで、そもそもあの第1回のあたりから例示だったのかもしれませんが、メッセ施設というようなことが書いてあったり、あるいは17ページのほうは、これはどのぐらい実現可能性のあるものが並んでいるかというのは、ちょっとわからないところもありますけれども、それは置いて、この16ページの①のところですね、ここをハイライトするべき一つのものにするということがよろしいのではないかなというふうに私は思います。

それから、先ほどの別の方からお話がありましたけども、鉄道関係のことが結構入っていて、そこは私うれしいんですけども、何しろよくよく連携をさせていただいて、重複とか漏れとか、そういうことのないような、これは駅の部分は関係なしになっていると思うんですけど、例えば、駅のほうにスポーツクラブが入っちゃったからこっちにはないとかって、それは結果的にはそれでいいんですけど、そこら辺の連携というか、どのくらいちゃんととれるのかどうかわかりませんが、とれると非常によろしいかなというふうに思います。

<会長>

はい、ありがとうございました。2つあったように思いましたけど、後のほうは鉄道を利用するという点だったように思いますが、初めの1番のほうは、時間的には長くお話しされたように思いますが、交通を中心として、それを生かして産業振興するという観点から、16ページの①にあるあたりを重点的にしたらどうかと、こういう話ですかね。はい、ありがとうございました。

どうぞ。

<委員>

観光コンベンションの立場から言いますが、今おっしゃったように、「ひと、まち、歴史と自然が輝く交流と創造のまち 山口」ということを標榜している山口市とすれば、まず手をつけていただきたいのはメッセ機能、できれば予算に応じて書いてありますが、簡単なコンベンションのできる施設、御承知のように、現政権は、観光ということに非常に、あるいは交流人口の増加ということに非常に大きな力を入れると言っていますので、そういう流れから言うても、ぜひその辺を重点的にしていただけたらなと思っております。

<会長>

はい、ありがとうございました。今の16ページの①というあたりは同じですかね、そういう点から、もう少しはっきりとメッセの機能あるいは簡単なコンベンションの機能ができるような施設が要るのではないかと、こういうお話ですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）はい、どうぞ。

<委員>

コンベンション機能で大体ワンユニットといいますか、空間が大体40メートル掛け40メートルぐらいですね。下関が約2つ分ですね。例えば、新山口駅近郊にメッセ機能を持つとしたら何ユニットぐらい要るんですかね。面積でどのくらい要るんですかということ。下関は2つなんですよ。沼津が4つですかね。ユニットの大きさによって、じゃどのぐらいになるかという部分と、その空間をメッセだけじゃなくて、いろんな対応的な使い方、例えば、今下関にありますね。下関の今利用率が40、メッセでは35%ぐらい、イベント会場が約45ぐらいですかね。だから、要は、利用されない部分もメッセ機能であって、利用されない空間をどう使うかというのも一つの柱だし、例えば、さっきも言いましたが、この新山口駅を中心としてほかの社会資源があるんですね。ふれあいセンター、ここには約300人ぐらいの会議ができる。2階の会議室を使えば、約四、五百名の方が会議ができる。小っちゃな会議、ホテルを使わなくとも市営のものがある。それと南総合センター、ここにはシネマができるような500席余りの会議もできるような空間がある。体育館もある。会議主体でやれば、やっぱり300ぐらいは入れるという、こういう機能がある

中で、じゃメッセがないんだったら、メッセだけは小郡につくろ。でも、そのメッセはどのくらいの広さが要って、どうなんだということが全然話がないし、そういうことが理解されればね、じゃ今下関のメッセの報告書に書いてありますが、非常に展示会部分は利用率が低くて、どんどん誘致にかかって頑張っているんだと書いてあるんですね。下関を利用された方で、200人以上の方が下関市内に泊まれる場合はその団体に10万、500人以上の団体さんが下関に泊まれる場合は50万助成しますよというような制度もつくって頑張られていると思うんですね。だから、この前は全部門司にとられちゃうというふうな話も聞いたんですが。現実的には、そういう助成金を使ってでもやろうと。ただ、何かをやろうという部分の中で、いろんな仕掛けがあると思うんですが、既存のある施設といいますかね、そういうものを利用するためには、現実的にはメッセだけ考えて、それにどうフォローをつけていくか。そうすると、同じ山口に来たという方でも、もっと大きい大会は、吉敷のアリーナでやるとか、役割分担を決めれば、なかなかできないことじゃないかなと思うんです。

それと、これはもう全く冗談な話ですけど、札幌ドームは床盤が動きますよね。スケートができる底盤といいますか、人工芝が出てくる。ただ、メッセ機能の床面というんですか、これも勝手に動くとかいう発想があってもいいと思うんですよ。だから、たまたま上を通るのにのぞいたら、下のコンクリートが出てくるんだよというようなことも考えられて、結構半分遊びみたいというんですか。

それともう一点、1月の9日に大阪の中之島で竹中工務店が変わったものをつくっているんですね。これは免震工法といいますか、免震工法も入っていて、あと建物の中に大きな劇場を入れていると。そういう発想で考えれば、メッセだけという単独じゃなくて、いろんな人が集まる要素が出てくると思うんですね。そういう意味で、一つは建築的にもおもしろいもの、それと、要はいろんな人が来れる要素といいますか、ただ単に今、海峡メッセだったら、タワーに上がってもらう人をふやさないと利用率が上がらないという話をしていますけど、そんなもんじゃなくて、ある程度おもしろいものがあれば人が寄るというふうな発想もあっていいんじゃないかと思います。

<会長>

今のは、メッセを考えるのであれば、面積はどれぐらいかという御質問と、それから、メッセを中心に何かの施設をつくるとしたら、その利用方法にはこのような例があるというのを御説明いただいたんでしょうか。（「そうです」と呼ぶ者あり）はい、ありがとうございました。

時間が半になりました、あと30分ぐらいありますけれども、土地利用のほうはまだ残されていますので、今いただいておるこの機能と施設のところで、市のほうから案が出されておりますが、これについて、こういう点をより重点的にという、その箇所を先ほどのように、大体ページで言えば、このあたりのここらに書いてある点のこれについて私はもうちょっと重点を膨らますというか、力点を置いたらいいと思うと、そういうふうな御意見はあと15分ぐらいいただけたらと思うんですが。はい、どうぞ。

<委員>

先ほどの鉄道のところについてはちょっと私もまだコメントできる立場にありませんので、また煮詰めていただければと思いますが、現実の話をしていただくと、私、まさに玄関口に今おりますJRの代表として来ていますんで、この年末年始も多数の方が来られています。決して人がいないわけじゃなくて、実際来られているんですが、まさに先ほど委員がおっしゃったように通過点なんですね、今の小郡、新山口駅というのは。たくさんの方が年末年始も南側の狭い駐車場のところにたくさん車がたくさんあふれて、コンビニの駐車場まであふれて、もしくは周りの有料の駐車場にもあふれて、車はたくさん来て

いるんだけれども、そのたくさん来られた方たちは、お出迎えなりお見送りをしたらずぐ帰って行ってしまっ、どこにもとどまらずに小郡から去っていくというような、そういう行動形態が多いと思いますんで、例えば、来られた方をつなぎとめるような、とどめさしてお金を少しでも落としてももらえるような、ここのページでいうと12、13ページのにぎわいの創出というんですかね、そこをやっぱり今の現実の今の地区を考えると、来るかどうか分からないような人たちを期待するよりは、まず今来ていただいている方たちを何とかつなぎとめるようなものを北側につくっていただければなあと、そういう機能を入れていただければなと思っています。

というのは、例えば駅に来られても、レンタカー屋さんもたくさんありますし、そういうバスとか鉄道も本当は利用していただきたいんですけども、レンタカーでたくさん観光地とか、もしくは出張とかでいるんなとこ回られる方が非常に多いですが、レンタカーを借りる前にどこかへ立ち寄って、何か買い物とか食事とかしようかなと思っても、小郡地区には残念ながらそういうものは、小郡の新山口の駅の周辺には余りないので、すぐ去って行ってしまいうのが今の現状ですので、北側にそういうものがあれば、今、ターミナルパークの計画で南北の自由通路というのができていますから、北側へうまいこと人を流していくというところで、新幹線側から出ていくような人たちを北のほうに引っ張っていくようなところに力点を置いて、にぎわいのものを北につくるというようなものがあるのかなと思っています。

<会長>

ありがとうございます。人が集まってくるけど通過点であると、そこで来ている人たちがとどまれるような、12ページにあるようなにぎわいの点を強調したらどうかと、こういう御意見でございますですね。できれば皆さんに御意見いただきたいと思いますので、余り時間、それぞれの方の御時間は短いかと思いますが、要点的にお話しいただけたらと。ちょっと今先に手が挙げりましたので、どうぞ、はい。

<委員>

16ページのやはりメッセのことを強く押していただきたいというふうにも思っております。市長が今まで言ってきておりますので、あえて繰り返しません。それから――メッセについては4,000平米クラスということです。それから17ページの大学関係ですね、サテライト等含めて、これは大学のほうが今単独でハード整備というのは非常に厳しい状況におられますので、今回いいチャンスですから、こちらのほうで準備できればこういう大学コンソーシアム等の誘致も可能になるんじゃないかという感じがしますから、この点もぜひ、にぎわい創出には非常にインパクトがありますので、大学についても重点にやってほしいなと思っております。

それから最後ですが、18ページの土地の利用のあり方の中で、行政の土地については、これは利用の仕方がいろいろあると思うんですけど、民間資本を導入する場合は長期定期借地であるとか、普通借地と言われる方はありますが、商業系であれば長期定期借地でいいんですが、住居になるとこれ普通借地にしないとなかなか30年、50年単位でそこに住めないということになりますから、そういう点も踏まえて書いていただければ、民間もいろんな視点でここに民間資本の導入を考えやすいという、この1個の大きなインパクトになるんじゃないかと思います。そこをよろしくお願いします。

<会長>

3点いただきましたですね、メッセのことと大学のことと借地のあり方ですね。じゃあお願いします。

<委員>

私、時間が余りないので、1点だけちょっと事務局の立場になって、これ事務局また困っちゃうだろうなと今私思っていて、次回これでまたどうなるんだ

ろうと思ったとき、皆さん、結局前回いろいろおっしゃったことをまとめて結果が今の素案でありまして、またそれぞれ皆さんこれをもっと強調するということを言ったときに、この素案がまたさらに何か膨れ上がって、それでその形で着地するような気がしてならないんですけども、事務局としてそういうことで、今のここがってまとめるめどが立つのかどうかちょっと気になったので、大丈夫なのかなという、ちょっとそんな感想持ちましたんで、逆に何というか、むしろ割り切るところとか、絞ってあげるところというのを提示してあげた方が何か事務局としてはやりやすくなるんじゃないかなというような印象もちょっと持った次第、あくまでも感想なんで、済みません、これ議事に係ることなんで結構なんですけども、その感想だけ。

<会長>

はい、ありがとうございます。今のはここに書いてあることの膨らますよりは削るという発想ですか、そのほうがいいんじゃないかと。

<委員>

いえ、事務局さんの立場になれば、それぞれの委員がせっかく来ていろいろ言ったことをやっぱり削っていくのは多分つらいんじゃないかなあと。その結果として今この素案ができているわけなんで、そのコンセプトをもう少し絞ってあげたほうが、もう少し何か具体的なものができるようなイメージがして、いや今日今議論を聞いていて、この素案以上のものがさらに何かできるというイメージがちょっと私わなくて、私が事務局だったら書けないなというのが今の感想なんです。

そこのところは大丈夫なのかなって、ちょっと事務局さんの認識と、事務局さんとしては何を逆に求めたいのかということを確認してあげれば、私はもう少し意見が言いやすいなというふうに今思った次第です。

<会長>

わかりました。事務局は何を求めていますか。

<事務局>

御意見ありがとうございます。正直、どうやってまとめていこうかなとちょっとこれが終わって具体的に考えていけないといけないのかなあと、市長も交えていろいろ当然それは検討していけないといけないのかなあとというふうには思っております。

一方で、先ほどちょっとこういったことが現実的に可能なのかなあと、こういった整備ができるのかなあとというふうな、ちょっとバラ色めいているような部分もあるんじゃないかというふうな御指摘もいただいたというふうに思っております。

で、事務局としましては、この本文の中にも書いておるんですが、いわゆる小郡都市核を成長エンジンとしてしっかりと積み上げていきたいと。そのためには何をすべきかという部分について、これは多分無理だからやらないよとか、これはだめだから書くまいよとかいう話ではなくて、まずは広い意味でいろいろと皆様方から御意見をいただいて、その可能性を追求してみたいと。その上で、例えばいろんな機能については、この方針をもとによりよい成長エンジンとしていくために、いろいろ（「もうちょっと短くやって」と呼ぶ者あり）はい、市として努力していきたいというふうなことを考えておりますんで、どのようにちょっと絞っていけるかというのは、ちょっと今からの検討課題かなあとというふうには感じ……。

<会長>

何を聞きたいのかということ。

<委員>

そしたらね、前回私は発言しているわけですよ、自分のアイデアを、それをもう1回ここで繰り返して説明しますよということなんです。たらそれをもう1回またのっけてくれるんですかっていう話ですね。今そういうことだと総

花的になっちゃうし、これじゃあ形になんないよねっていう議論が問題——ということが議論になっているわけですね。

だから、このまま行ったら皆さんが今今日、いろんな委員がおっしゃったことをさらにこれを盛り込んで、より分厚い層をつくっていくという形がもう見えてしまうような気がするので、そこに私は危機感を覚えて言ってるだけです。私の意見を言えといえば、もう1回同じこと言います。私は自分の信念を持って、前回自分の大事だ、大切だと思うことを言ったままであって、それはこの素案に織り込んでいただきますけども、今日ここでまたね、重要性を強調しなければその素案はまた削りますという話であれば、もう1回繰り返します。みんながそれをやったら同じことが繰り返されるということです。あんまり建設的じゃないような気がしたので、申し上げただけです。

<会長>

ありますか、事務局、何か。——それでは、特にないようでしたら、引き続きまして、ここに書いてあることの中で特に自分が重点的に主張したい点を、繰り返しになるかもしれませんが、ごく手短にもう一遍、皆さんのが一応出そろった段階で改めてほかのとのバランスも考えながら、自分が主張するところがこうだということを言っていたきたいと思います。はい、どうぞ。

<委員>

12ページのにぎわいのところなんですけども、地元の方がにぎわいを創出するというのもそうなんですけど、やはり外から来る方にも一緒ににぎわいをつくっていただくという意味で、観光としての玄関という位置づけも重要なのではないかなというふうに思います。

以上です。

<会長>

はい、ありがとうございました。12ページのにぎわいのところで関連して、観光としての玄関の樹立をと、こういうことですね。はい、ありがとうございました。ほかにございませんでしょうかね。はい、どうぞ、お願いします。

<委員>

私は前回も正直地域として個性があるかってときに、個性はつくろうというつもりで、今現在個性がないんだから、だから高齢者が住みやすいまちをつくりましょうという個性をつくろうという意見を申し上げたつもりです。その発想は今でも変わりませんので、織り込んでいただいた部分についてはぜひ生かしていただきたいと思うし、高齢者が住むのであれば、さらに住む人がより生活がエンジョイできるような、そういう施設にしていきたい。大分施設は重複するのがあるかもしれないけども、そういった住む人の立場になってのまちづくりということを考えていきたいということでもあります。

<会長>

はい、ありがとうございました。高齢者が住みよいまちにと、こういうことですね。ほかにありませんですかね。大体今の出てきたのを見ますと、たくさん盛られていましたけれども、繰り返し今出てきた点は、そんなにたくさんではないようですね、見ますと。はい、どうぞ。

<委員>

何か言っておかないと削り取られそうなのでちょっと1点言っておかないといけないなと思って。ここで言ってるのは、交通結節点と産業交流拠点というのと、玄関というのが上位計画が来てるんですよね。産業交流拠点とは何かということを少しやっぱり考えないといけないということと、もう一つは交通結節点、交通結節点ということを考えれば、これはもう公共交通絶対外せないということやらないといけないと思うんですよね、それと駐車場と駐輪場とアクセス道路の問題とか、これを同時に考えないと土地利用なかなか考えられないというのは、初回に言った話なので、そこは私としても譲れないとは言えませんが、それをやらないと、いわゆる土地利用計画につながっていかないと

いうふうに私も信念として思っておりますので、ぜひ取り上げていただきたい。

それと、先ほどのどれがどうかというところの中で、少しちょっと気になるのは、15ページに書いてるような、デザインコードとかサインの問題とか、これはいわゆる都市デザインやっていく上でのこれはもう当たり前の話なんですね。それとか地区計画をかけるとか、環境に配慮するなんていうのは、これ当たり前のことなので、ここの重点地区も含めてやっていく上では、これはもう当然やらないといけないことなので、これは行政の責任としてやっていかないといけないので、こういうのはもうおのずと残っていくことだろうというふうに思っていて、だから同じレベルで①②③が書いてあるので、それを少し温度差をちゃんとつけて、これはちゃんとやるべきことというか、計画が進捗していく中でこれはもう絶対やっていかないといけない。またそれ当然合意形成必要になってくるところありますけれども、それはやっぱりやっていかないといけないことと、もう一つは、産業交流拠点ということになったときに、例えば飲食物販だけで中心的機能を果たせ得るのか、そういうこともちゃんと考えた上で、ここの中身を少しプライオリティーづけをして、やっぱりやっていく必要があるのかな、当然産業交流拠点になれば、コンプレックス施設になってくるわけですから、複合施設になってくる可能性もあるので、そういったところの整理の仕方も十分あり得るんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

<会長>

はい、ありがとうございました。ほかにありませんですかね。はい、どうぞ。

<委員>

この整備計画は、先ほど申しましたようにいろんな市の総合計画あるいはマスタープランとか、いろんな計画の中でも整合性をとっていくんだと思うんで、最終的にはやっぱり皆さんの意見の中で市のほうが決定されるべきだと思います。私は個人的には、にぎわいと、ずっと観光を見てみますと、人の動きというのはもう半分以上が食につながるんで、私の信念としては常ににぎわいというのは、人がとまるというのは食に関連するんで、ぜひそういった面は検討の中に残しておいてほしいなと思っております。

<会長>

食に関連するということですね。

それでは、御意見たくさんいただきましたけれども、土地利用のあり方のところが18ページ以降ですが、残されていますので、これも考え合わせて御意見いただきたいと思います。既にいただいたのもありますけれども、機能と施設のほうを重点的に話しいただきましたので、控えていらっしゃる方もあるかもわかりませんので、土地利用のあり方のほうで御意見があればお願いしたいと思います。はい、どうぞ。

<委員>

済みません、パークアンドライドとか駐車場という話があるんですけども、面積が非常に少ないこともあって、南側に相当駐車場というのが民間でありますし、あとキスアンドライドとかバスの乗り場とかも南にもあるということで、南と北の整合性というか、役割分担をちょっとはっきりしたほうがいいかなと。特に駐車場はかなり場所もとりますので、ターミナルパークで南北を本当に行き来しやすいような形にするのであれば、それを一つ考えたほうがいいかなということと、あとはアクセス道路等々がマスタープラン等に入っていると思いますので、その辺も土地利用のあり方のところに少しかぶるかもしれませんが、ちょっと足したほうがいいかなと思っています。

以上です。

<会長>

駐車場のこととアクセス道路の件ですね。はい、ありがとうございました。

ほかにございませんですかね。どうぞ、はい。

<委員>

この写真を見てほしいんですが、この真ん中にアスファルトで黒いところがあるんですけどね、これが32、3メートルの——30ないですね、30メートルの約72、3メートルの形なんです。ここで今我々フリーマーケットもやっているんですけど、このスペースをこのままぼんと置いたときに、さっき河野さんおっしゃったようなスペース、約40メートルの100メートルね、2.5スパンという形にすると、これよりもっと広い空間がこの中にぼんと入っちゃうという発想は非常に土地利用的にはうまくいかないと思うんですね。

それと、これは私どもの問題ですが、ちょうどこの部分ですね、交番があるんですが、交番のところに今の山口バイパスのアクセス道路がおりてくると。そういうことになりますと、私ども地権者3名がひっかかります。3名がひっかかるということは、再開発をやるとかいう話になったときに、非常にその方々の対処の問題もありますし、どうするかという問題もあるんですけど、まちを形成する部分を考えてみますと、今1.6に入ってくる細い道路があるんですね、6メートルの、この道路を逆に民地と交換してやればもっとこの再開発もええじゃろう、ゾーンというのが使い道がいいかなと思います。

それと、唐樋川という川がここに流れているんですが、ちょうど今、さっき言いました中之島のビルもエコという部分で、川の水をかなり利用してやっているという部分で、この唐樋川についてアクセス道路ですね、この辺をうまく使えば非常に我々が再開発やるという部分でのおもしろいものができるんじゃないかと思います。

で、Cゾーンですけど、10年ぐらい前から私ども調べているんですが、未利用といいますか、ほとんど使われていない土地がいっぱいですね、JRさん、JTさん、あと山口市さんの土地もあるし、宇部市営さんのバス、土地もあります。そういうほとんど利用されていない土地をある程度長いスパンで、買いやすいといったらおかしいんですけど、売りやすい土地にしてあげて、インフラをきちんと整備してあげることが、このCゾーンについては長いスパンで民間の人たちが張りつけやすいような区画を形成してあげれば、バック人口といいますか、駅に対するバック人口も結構ふえてくるんじゃないかと思います。

以上です。

<会長>

ありがとうございます。再開発ゾーンとか、あるいは今のアクセス道路、川の使い方やCゾーンについて御意見いただきました。ほかにありませんか。

それで、今御意見をいただきまして、次回がパブリックコメントに出すまでの案をつくるということになります。今日の踏まえて出していただくことになりますけれども、それは今日出していただいたこの案に、今日御意見をいただいて、こういう点をこの案の中でより強く出してほしいという御意見をいただきましたので、それに基づいて次回パブリックコメントにかけられるような案を出してもらうという、そういうのでよろしいですかね。なかなかまとめ方は難しいと思うんですけども、それぞれの方が御意見を出していただいて、そしてそこで練り合わせてより強調するべきところを出していくと、案は一応網羅はされているけれども、それだけでいいんだったら今日のでもいいかもわかりませんが、それを整理してもらったのについて、それぞれの委員の方から今日御意見をいただいて、網羅はされているけれども、そのうちこの辺を強調してほしいという御意見をいただいたことになりますからですね、それでよろしいですかね。事務局のほうは次の案がまとめられそうですか。

<事務局>

はい、そういった方向で次回までに整理させていただきたいと思っております。

<会長>

はい。

<事務局>

今日本日さまざまな意見いただきまして、重点化といいますか、強調すべきことは強調しまして、わかりやすいコンセプト、それから今後の展開、プログラムを仕上げるといいますか、そのあたりもちょっと検討して次のパブコメ案を作成していきたいというふうに考えております。

<会長>

いろいろ委員から意見を出していただいたことについて、それを削って重点化するというのはなかなか難しいと思うんですが、そうでなくて、書いて今日出してもらった案の中で、どこをより強調するかという点を今日はお伺いしたと、そういうのでよろしいですかね。それぞれ御不満も残ろうかと思えますけれども、この点を強調してほしいというのがありましたら、事務局のほうにいつごろかまでに意見を寄せてもらえれば、反映される余地はありますか。時間を——時間というか、期日はどれぐらいまでですか。

<事務局>

後ほどちょっとお話しさせていただきますが、第4回を2月の5日に予定をいたしております。それから、ちょっと逆算しまして、これは希望でございますが、できれば来週いっぱいぐらいで御意見をいただければというふうな思いがございます。

<会長>

来週いっぱいぐらいに補足する意見があれば出していただきたいと思います。

今日ここで御意見いただきましたのは、前回意見をいただいたのはそれぞれお話をいただいたんですけれども、全員の意見が一応入れられるような形で出していただいたものについて、改めてほかの方との関連も含めて御自分の御意見をそれぞれ出していただきたいと思いますということで、出していただいたつもりであります。

では、今日のほうは今のようによまとめさせていただきたいと思いますが、もう一度確認したいと思えますけれども、今日出されました素案に対して、全体として前回出されたような意見はおおむね盛り込まれていると。そのうちよりどこを重点的に書くべきかについて、重点を置くべきかについて今日御意見をいただいた。それに基づいて次回は案を出していただきたいと、そういうことでよろしいですかね。そして、補足的な御意見があれば、来週いっぱいまでに事務局のほうに連絡してくださいと、こういうことですね。

それでは、議題のほうはこれで終わります、その他のところで先ほどちょっとスケジュールのようなこともありましたが、もう一度確認して、その他のほうに移ってください。お願いします。

4 その他

<事務局>

日程調整の依頼

<会長>

はい、ありがとうございます。第4回目が2月5日金曜日の午前、第5回目が3月25日木曜日の午後で予定していると、そういうことですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）はい。第4回については前回御了解いただいておりますが、第5回目は具体的には25日ということですね。（「はい」と呼ぶ者あり）ほかに何かその他ありますか。以上ですか。

それでは、ちょうど時間にもなりましたので、第3回の検討協議会を閉じたいと思いますが、何か一言というのはありますか。よろしいですか。それでは、閉じさせていただきます。どうもお忙しいところありがとうございます。

	た。 以上で会議を終了した。
会議資料	資料１：新山口駅北地区重点エリア整備方針（素案） その他：会議次第、委員名簿、席次表
問い合わせ先	ターミナルパーク整備部計画課 TEL ０８３－９７３－８１９３

